

## タンザニア共和国ウガラ地域活動報告

### 「タンザニア共和国ウガラ地域における監視小屋建設計画」

#### 2009年活動報告

前年、この地域を管轄するキゴマの自然管理事務所を訪れた際、監視にあたってはスタッフが一定期間ごとに交代するローテーションシステムを取り入れるのがよいだろうというアドバイスを受けた。そこで今年度は、監視スタッフの人選とトレーニングをおこなった。

スタッフは、自転車で1日以内に監視小屋建設予定地であるングウェ地区へ到達できるムワミラ村とカズラミンバ村の村人から選抜した。人材としては、同地の地理・地形に詳しく、動植物の知識に長けており、健康で誠実な成人男性を対象とした。



【初回監視スタッフ候補メンバー】



【ングウェ地区で見かける畷】

すでに廃村となってしまったが、かつてングウェ地区の近くにはキサトという村があった。キサト村に住んでいた人々は、現在、ムワミラ村やカズラミンバ村に移り住んでいる。彼らは監視小屋建設予定地周辺の地理に詳しく、この地域でチンパンジーに何度も遭遇した経験をもつ貴重な人材である。そこで、キサト村出身者を中心に、監視スタッフの仕事を希望する者を集めた。植物樹種同定テストや面接を実施して彼らの基礎レベルや人柄をみたあと、年齢、家族構成などを尋ね、監視スタッフ候補者名簿を作成した。その後、彼らと共にングウェ地区に入り、トレーニングを兼ねた監視活動を実施した。

監視スタッフが見回りをして取り締まる項目は、主に伐採、哺乳類の捕獲用罠、畑の開墾など、いずれも違法行為である。事前に日本人研究者がスワヒリ語で作成した記録用紙を配り、見回りと同時に現状の記録もさせた。慣れるまでは日本人が同行して訓練を行い、その後、監視スタッフが2人1組となって見回りをおこなった。

今回は、ローテーションを組む監視グループのリーダー的存在を探すことも目的としていた。同行したメンバーの中でも、キサト村出身者のジョン・ジョゼフとアレックス・アルフレッド(右上写真)はリーダーに相応しい人材であったため、彼らを初回監視メンバーの候補者とする予定である。

現地の人々が、監視活動に積極的に参加することは、監視をおこなうメリットだけでなく、現地の人々の自然保全への意識を高めるという面も期待できると考えている。

## ウガラ収支報告書

### 円会計

#	日付	項目	入金	出金	備考
1	2009. 1. 1	前年度繰越金	900,000		
2	2009. 8. 25	ドルへ換金 (キャッシュ)		100,000	ドル#2 へ
3		次年繰越金		800,000	
合計			900,000	900,000	

### USドル会計(単位 \$)

#	日付	項目	入金	出金	備考
1	2009. 1. 1	前年度繰越金	0		
2	2009. 8. 25	円から換金 (キャッシュ)	1,029		円#2 より
3	2009. 8. 27	ドルキャッシュを Tsh へ換金		1,029	
4		次年繰越金		0	
合計			1,029	1,029	

### タンザニア・シリング会計(単位 Tsh)

#	日付	項目	入金	出金	備考
1	2009. 1. 1	前年度繰越金	8,298		
2	2009. 8. 27	ドルから換金	1,356,246		\$ #3 より
3	2009. 8. 30	トーチ		30,000	
4	2009. 8. 30	トーチ用乾電池		10,000	
5	2009. 8. 30	監視小屋アシスタント用靴		115,000	
6	2009. 8. 30	監視小屋アシスタント用の装備		55,000	
7	2009. 8. 30	トレーニング用に使用した文具		4,000	
8	2009. 8. 31-	人件費・トレーニング中の食費込み		600,000	
	2009. 9. 19	(T sh5000/日×6人×20日)			
次年繰越金				550,544	
合計			1,364,544	1,364,544	